

開発の趣旨	算数に関するソフトは数多く出されていますが、集団的に学ぶ授業場面において個による多様な追求活動に応じたり、必要に応じて振り返りに使えたりするソフトは少ないと思われます。そこで、授業場面で教師のプレゼンテーションとしても使え、また、児童が自ら方法を選択して主体的に学習を進めることができるソフトというコンセプトで作成を試みました。
コンテンツの内容	6年生の算数「単位量あたり」において、単元設定を補助するソフトです。既習事項を活かしながら、新たな課題に向かって、児童が追求方法を自己選択しながら利用できるようにしています。また、習熟の程度に合わせて、必要に応じてヒントが見られるようにしており、自力解決をサポートしています。
操作方法	<p>パワーポイントまたはビューアにおいて、ファイルを開き、プレゼンテーションの実行を行います。</p> <p>スライド上で、右クリックし、ポインタオプション 矢印のオプション 表示と選び、矢印を常に表示しておく方が児童には親切です。</p> <p>基本的には左クリックする度にページの内容が追加・変化していき、そのページの表示が全て終わった時点で、リンクをクリックすることで目的のページへジャンプするようにしています。</p> <p>終了時はスライド上(どのスライドでも可)で右クリックして、スライドショーの終了を選びます。</p>
活用例等	<p><u>ア 課題設定時のプレゼンテーションとして</u></p> <p>問題場面の把握を効率的に行うために教師主導のプレゼンテーションとして本ソフトをしようすることができます。あらかじめ、リンクのつながりを把握しておいて、必要な箇所だけ見せるようにします。</p> <p><u>イ 児童の自己選択による学習材として</u></p> <p>課題の把握場面で、いったん画面操作を止め、自分なりの解決の見通しを持たせた後、児童の操作活動にうつすことにより、問題解決的な学びとなります。児童の考えを大切にするため途中段階で待ったり、スライドをとばしたりすることで、思考判断力に応じることができます。必要に応じてヒントのページを利用できるようにしていますが、より個別的な支援が必要な児童には、リンクをたどっていくと、「先生に自分にぴったりのヒントをもらいましょう」というメッセージが出るようにしています。また、学習進度が速く、1つの方法で追求が終わった児童には、別の方法でさらにレベルアップしようとしてよびかけるようにしています。</p> <p><u>ウ ふりかえりのプレゼンテーション、ヒントカードとして</u></p> <p>次時の「日常生活で単位量あたりの考え方が用いられる場面で2つの観点から量の大きさをくらべる学習」では、前時を振り返るプレゼンテーションとして、また、つまづいている児童に対して基本の部分を振り返るヒントカード(補充材)として利用することもできます。</p>
メールアドレス	chizuka@cello.ocn.ne.p